

## 第2回ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 平成30年11月18日（土） 14時～16時
- 開催場所 新木近隣センター
- 参加者 34名
- 市出席者 星野市長、廣瀬総務部長、渡辺企画財政部長、柏木市民生活部長、  
増田環境経済部長、古谷建設部長、伊藤都市部長、他10人

### ■懇談要旨

市 民：あびバスについて、昨年自治会を通じてアンケートを提出したが、どのような形で検討しているのか、いつ頃どのような形で反映されるのか聞きたい。

交通課長：アンケートの結果を日大の学生の協力で公共交通機関についてということでもとめていただきました。今年度にも新木地区・並木地区の地域会議にお集まりいただきまして、意見をいただき、今後作成する公共交通の方針と計画書に反映させていただく予定です。昨年アンケートの集計については、交通課で見ることができます。

建設部長：アンケートの集計については、後日、こちらの近隣センターで見られるように置いておきます。

市 民：新木団地のあびバスのコースについてですが、長太郎団地の中はほとんど通りません。利用するのに不便です。高齢者のためにもっと考えていただきたい。

交通課長：以前のルートを通れない新型バスの構造となっているため、車の大きさは変わらないですが、最小回転径が大きくなっていることから小回りが利かなく、現地を事前に確認した結果、ぎりぎり通行できるコースが今のコースです。

現状では今のルートしかないことをご理解ください。

市長：同様なことが、並木・台田地区でも現在新型車両で、調査をしているところです。旧型車が生産中止になり、新しく低床のバスとなるため前後の車輪の幅（ホイールベース）が広くなり、曲がれなくところが出てきています。

マイクロバスの手法もありますが、この場合、乗車は座席数しか乗れませんので、場合によっては乗車できないケースも考えられます。また、多くの場所を経由して行くには、それだけ時間がかかるということです。これらの課題に対して利用していただく皆さんが了解できるのかということになります。

市民：新木駅に向かうあびバスについて、JRとはマッチしていません。回り道をしてマッチしないということなら、もっと利用者のためになるようなコースをと思います。今後検討する中で、その辺のことをどのように考えているのか。

市長：地域交通会議では、民間の阪東バス・タクシー会社やコミュニティバス（あびバス）の市内の交通体系全体での運行のあり方、地域交通についての話し合いをしています。

新木ルートについての新たな案につきましては、まだアンケートを取りまとめた段階です。新たな提案はこれから進めて行くことになります。

市民：先日の地域会議では、移動スーパーに関してと地域交通としてデマンドタクシーの話がありました。

質問は、地域交通としてあびバス以外に何を考えているのかお聞きしたい。

要望として、今後新木ルートを作成し運用していくことにあたっては意見を十分集めていただきたいと思います。

交通課長：公共交通としてデマンドタクシーを紹介させていただきました。我孫子市が今導入を考えていると言う事ではありません。現在の公共交通は、JRとコミュニティバス（あびバス）です。

なお、公共交通を補う形で、65歳以上の高齢者支援として、病院の送迎バスを利用できる形で運用しているところです。

今の新ルートになって約2年弱たちました。利用者の数は現在、改正前と変わらない状況となっています。運行の見直し時は必ず地域住民と話し合ってきたりしています。また、新木地区で一番多かった要望は、便数を増やすと言う事だったので、改正前より1便増やして運行しております。

市 民：現在のコースになる際に地元自治会として2回試乗させていただき、ホールベースが長くなったことで曲がれない交差点がありました、自治会として当時アンケートを取り市に提出もしました。今現在、新木4丁目の高齢者はほとんどバス停が遠くなったことで利用していない状況だと思います。マイクロバスでもいいからぜひ運行してほしい。

市 長：他の地域でも良く出る意見として、もう少し値上げしてもいいからあびバスを継続してほしい、通過してもいいからマイクロバスでの運行をお願いしたいなどの意見を頂戴しています。今後も、皆様からの意見や、地域交通会議など様々な形で意見を頂戴しながら、少しずつ進めさせていただければと思います。

市 民：地域会議についてお話をさせていただきたいと思います。

新木地区の地域会議は今年で3年目となります。年3回の会議を開いてましてこの10月で9回目を開催しました。その中で8回と9回は買い物支援について、その1・その2と話し合っています。公共交通あびバスについての話など相対的に話し合っていますが、この問題はすぐに解決出来る問題ではないなと思っています。今後も来年2月に、その3（第10回）として話し合う予定です。多くの皆さんの参加があるのですが、自治会関係者の皆様も、ぜひおいでください。また、普段から事務所に来ていただいて意見交換していただければと思います。

市長：市内に10あるまちづくり協議会の内、5か所で地域会議が発足しています。それぞれの地域でそれぞれの課題があります。新木地区の地域会議では毎回あびバスについての意見を頂戴しています。

あびバスルートにはいくつかの自治会がありますが、それぞれ要求される意見が違ふことが多々あります。また、356号では阪東バスとの兼ね合いもあり調整が非常に難しい状況です。そういった形の中で意見調整をしながら少しずつでも進めていきたいと思ひますので、これからもご協力よろしくお願ひします。

市民：下新木踏切の工事が始まりましたが、いつまでに完了しますか。

もう一点は、現在工事している創価学会の北側の斜面の木が伐採されてむき出し状態になっていますが、今後どうするのか伺ひたい。以上2点について質問します。

交通課主幹：下新木踏切につきましては、今年度、現在踏切改良工事をするにあつたての拡幅工事を進めています。踏切本体工事につきましては、工事が約1年半かかります。31年・32年度の予定で進めています。また、用地買収も並行して進めていきます。

都市部長：ご指摘の斜面は、創価学会での開発区域とは別で区域外の個人所有の土地です。個人管理となりますので開発行為での指導はできません。

市長：開発と一体でないことですので、今後どうするのか確認して報告したいと思ひますので、よろしくお願ひします。

下新木踏切については、電車が通らない夜間にすることでそれなりの期間がかかります。踏切は西側に振る形となります。

現在拡幅した通行可能な場所も仮舗装となっています。まだまだご迷惑をかけることとなりますがご理解の程よろしくお願ひします。

市 民：平和台病院から江蔵地に行く道路のカーブのところの幅員が狭く危険ですが、創価学会の開発のためにどのような指導があったのか、安全にしたい。

都市部長：開発行為の場合は6Mの幅員が必要となります。南側356号と東側の道路いずれも6M以上ありますので拡幅の必要はありませんでした。

市 民：地域会議の中で台風による停電が発生したときに、市の防災無線からなんの情報提供もありませんでした。住民の不安を無くすためにも情報の提供はあってもいいんじゃないかという意見がありました。

市民生活部長：台風での電力会社の事故による停電でした。今回は、電力会社での復旧見通しが立たない状況や広報能力がなかったことから起きたことでした。今後は、市内の停電箇所をお知らせするだけでも市民の安心に繋がることから現在の協定の見直しも含め、対応していきたいと思います。

市 長：現在の協定は、7年前の震災時に結んだものですので、改めて確認したいと思います。

市 民：我孫子フィルで活動している一員です。市民会館に代わる文化交流拠点施設の建設をぜひ進めていただきたい。流出人口を減らすためにも賑わいを創り出すインフラ整備を進めて、魅力あるまちづくりを作っていかなければと思います。その一つの起爆剤として建設を進めていくことを要望します。

市 長：今回報告書で示している通り、我孫子市が造る文化交流拠点施設の建設地は民間の方々の意見も含め手賀沼のほりです。景観や賑わいの拠点となります。水の館があって鳥の博物館があって船取線の場所になります。ホール規模としては1000人規模を予定していますが、ギャラリースペース・フリースペースなど予定していますが、皆様からいろいろなご意見をいただき、来春

には次の段階に進めていきたいと思ひます。その中で、場所について変更は考へていませんので、それ以外のことについてお願ひします。

市 民：文化施設が出来るのは我々にとっては非常にうれしいことですが、我孫子市内における公共交通機関の整備についても、ぜひ進めてください。

市 長：現在は、土日のみ水の館前を阪東バスが通りますが、建設した場合は、公共交通機関もセットで考へていただきたいというご意見もいただけてます。

市 民：文化交流拠点施設ができるのは非常にうれしく思ひます。現在我孫子市民プラザで展示会を実施しましたが、奥まっているため年々来場者が減る傾向にあります。建設できましたら非常にうれしく思ひます。

市 長：市民プラザにはギャラリーとホールがありますが、あそこに毎年8000万かかっていますが文化交流拠点に集約してもいいという意見があれば、その分、文化交流拠点施設の運営費が減ることも考へられます。建設費につきましてももちろん考へますが、皆様から意見を頂戴して検討していきたいと思ひますのでよろしくお願ひします。